

## 中央教育審議会 生涯学習分科会におけるコメント

人口減少と産業構造の変化に直面する地域社会において、専門学校が「地域生き残り」のためにいかに機能すべきか、という観点でコメントします。キーワードは「**アドバンスト・エッセンシャルワーカー**」です。

### 【資料2】地方創生を支える「アドバンスト・エッセンシャルワーカー」育成への重点投資

3 頁～6 頁では、リ・スキリングの対象として「アドバンスト・エッセンシャルワーカー(AEW)」が明記されている。また 21 頁では都市と地方の連携が示されているが、地方においてこの AEW を育成できるのは、地域企業と密接なネットワークを持つ専門学校である。

単なる労働力不足を補うだけでなく、専門知識・技術に加え、生成 AI を使いこなし、生産性を高めるために現場の事務作業を効率化しながら、いっぽうで対人援助の本質である「非認知能力」を最大限に発揮できる高度な人材を育成できるよう尽力したい。こうした人材の育成に「専修学校によるアドバンスト・エッセンシャルワーカー創出のためのリ・スキリング推進事業」(6 頁)はとても興味深い予算措置である。

### 【資料4】質保証・向上と遠隔授業の制限について

6 頁で言及されている「遠隔授業の 4 分の 3 制限」については、通学が困難な中山間地域の学生や、働きながら学ぶ社会人の利便性、都会と地方との地域間格差を考慮し、教育の質が担保されている場合に限り、より大胆な緩和を検討したらどうか。

遠隔授業のポイントは「遠隔」と「通信」の在り方と言う点にあると考えている。遠隔と通信の境目が無くなりつつある現在、在り方含め整理が必要になってきている。

4 分の 3 ルールも環境変化と地域間格差の是正という視点で緩和の方向性で検討が必要。かつ通信制も含めわかりやすく使い易い制度を検討するべきと考えている。

### 【資料5】「地元就職率の高さ」を活かした地域産業の振興

18 頁に示されている通り、専門学校卒業生は大学卒業生に比べ、圧倒的に地元就職率が高い。感情労働が中心となる介護・看護などのエッセンシャルワークの現場において、AI を使いこなしつつ、人間にしかできない「心のケア」や「創造的な課題解決」を行う人材こそが地方を支える柱となる。その人材の育成を担うのが、地方の専門学校。

### まとめ：地方専門学校の存在意義

「アドバンスト・エッセンシャルワーカー」は、熟練の「手(技術)」に、最先端の「脳(AI)」と、人の気持ちに寄り添う「心(非認知能力)」を兼ね備えた存在。

それは、AI やロボットでは代替できない働きをする貴重な存在である。

そんな人材を育てるのが専門学校の使命。

大学が「理論や研究」を主眼とし、経営幹部層を目指すホワイトカラーを育成し、高専が「工業・エンジニアリング」に特化したブルーカラーを育成するのだとしたら、専門学校は、リアルな現場で、AI や DX を駆使して現場のイノベーションを仕掛けるアドバンスト・エッセンシャルワーカーを育成することで、すみ分けることができる。

以上

2026. 4. 28

穴吹学園 大平康喜